

銀漢亭日録



伊藤伊那男

5月11日(火) ▼ワクチン接種の予約すぐ取れる。夜、発行所にて

「火の会」八人。「北軽井沢句会」記念号へエッセイ。

13日(木) ▼毎日新聞の俳句SNSアプリ「俳句でふてふ」の「俳句万華鏡」へエッセイ。第二芸術論について。雨。角川合評鼎談(六月月号)の校正。幾つかの句会の選句。

14日(金) ▼都心に所用あり、あと久々、神楽坂を歩いてみる。懐かしい店多し。山業を売る店あり、行者にんにく、蕨、エシヤレット、アスパラガス、たくわんなど買い込む。何十年ぶりか「手打そば志な乃」に入る。満足。靖国神社に足を伸ばして帰る。

17日(月) ▼思いついて砂町銀座に行ってみる。波郷の町。商店街は約七百米。コロナ禍と月曜日で休みも目立つが、実にいい商店街。往復して途中で見付けた「銀座ホール」というレトロな店。和洋中華何もあり。ハンバーグごはん注文。また来たい店。惣菜屋のトンカツ、メンチカツ、煮卵。魚屋で鮑、鯛切り身、鱈子。八百屋で蕨を買う。安い！帰宅して蕨の灰汁抜き、鮑の酒蒸しなど。

21日(金) ▼十時半、横浜市営地下鉄センター南駅集合、伊那北会。茅ヶ崎城へ。駅であつ、と気がついたのは、五、六年前であつた

か、「早蕨句会」(久重淳子さん)の案内で吟行に来た城跡であつた。小雨の中を巡り、北駅近くの横浜市歴史博物館へ。二時間ほど横浜市の歴史を見たあと、続きの大塚・歳勝土遺跡公園へ。山法師の花が満開。こもその折に訪ねている。十五時頃か、北駅のサンマルクで昼食。緊急事態宣言中で酒は出ない。駅前で真竹の筍を二

本買って帰る。

22日(土) ▼十四時、飯田橋の角川書店にて「俳句」六月号についての合評鼎談。丁度二時間ほどで仕上がる。帰宅して筍の豆鼓炒め、いなだの酢ペ、焼そばなど。

23日(日) ▼数句会の選句。「俳句でふてふ」歳時記夏の部の校正など。店の来客だった某氏より句集出すので見てほしいとの依頼あり。選句と意見を伝える。夜、近所のT家で食事会に招かれる。料理二品ほど持参。私は早めに退出。

24日(月) ▼農家の野菜買いに。「あ・ん・ど・うクリニク」。前回から降圧剤の量を減らしたが大丈夫のようだ。

26日(水) ▼「銀漢」七月号の選句稿。各々、担当者宛て投函。劇団四季「ライオンキング」夜の部を見に大井町。四回目。これで大井町公演終わり、秋には有明へ移転。今日は大学一年の孫、莉子の初運転で。

30日(日) ▼長者丸(品川区上大崎)の宮澤事務所を成城学園前のビルに移すことになり、今日が引越最終日。家族で記念写真を撮りに行く。二十年前、私が世話をした物件。庭の梅の実を収穫してくる。

6月1日(火) ▼調布市の文芸講演会の講師。一時間四十分ほど。久々、人前で話す。あと「炎環」編集部、かつ同郷の縁から、銀漢同人になって下さっている竹内洋平氏のご自宅を訪問。奥様も同郷。今回私を講師に呼んでくださった宝田氏も一緒。十七時くらいから五時間近く置酒歓語。講演の続きで口が滑らかになり喋りすぎて失礼ではなかったかと……。すっかりご馳走になる。

2日(水) ▼一日空いたので、久々、立石の商店街へ行ってみる。緊急事態宣言を忠実に守っており、ほとんどが休業中。駅前開発も続いている。急遽、成田へ行くことにする。新勝寺を何十年ぶりかで参拝。十五時の大護摩。参道の「川豊」で鰻重と鯉こく。ビール一本。

4日(金) ▼「雲の峰」の渡辺政子様逝去と。純真で周囲を明るくする方であつた。享年七十九歳と。合掌。

5日(土) ▼朝の新幹線で気仙沼へ向かう。土産を忘れる。小田急で千代田線に入ってしまう。パスモと切符がうまく入らない……と、失敗ばかり。太田うさぎ、近恵さんと。気仙沼駅に小野寺清人、一砂兄弟の迎えを受け、二つの橋を渡って気仙沼大島へ(NHK連続テレビ小説の亀島)へ。一砂家の庭にてパーキユーパーティー。地元の方々数名も加わって下さる。畠山重篤氏も挨拶に寄って下さる。清水旭峰医師、光明寺住職。伊藤政三、こしだまほさんなども。蒸し牡蠣、つぶ貝、帆立貝焼、ソーセージ、気仙沼ホルモン、くさや。一砂さん秘蔵の銘酒が次々に空く。あと家の中に移り、鮑、インド鮪他、ふんだんな刺身。蛤……。十七時頃お開きとし、本日泊りの大鍋屋へ(小野寺元防衛大臣の生家)。二十一時、清水先生の顔で、「あさひ鮪」を開けて貰い二次会。志村昌さん到着。斎藤克之氏が酒を届けて下さる。二十二時半、就寝。

6日(日) ▼五時起床。風呂。快晴。六時半、朝食。七時半、出発。室根山へ向かう。ごくごく内輪で、第三十三回「森は海の恋人植樹祭」。昨年に続き、一般への告知はなく少人数。場所は昨年と同じ矢越山。室根山が美しく見え、時鳥がしきりに鳴く。昨年植樹した

苗が育っている。標に〈海に礼山に礼して苗木植う〉。今回は、〈海守る為のひとと苗木植う〉。気仙沼へ戻り、舞根の畠山重篤氏の仕事場を訪問。汽水湖に潮が入り入るのを見る。居合わせた東京都立大学の横山先生から解説を聞く。今日は宿にスマホを忘れる失態あり。清人さんに一ノ関まで車で送ってもらい解散。東北本線に乗車。何と二両編成のワンマンカー。小牛田で四両編成に乗り継ぎ。塩釜に下車し、タクシーで塩竈神社へ。二百数十段の石段を登る。壮麗な社殿は圧巻。海側へ降りると廃仏毀釈で壊滅した寺跡あり。この参道に芭蕉は宿泊した筈。すぐ近くに御釜神社、「浦霞醸造元佐浦」あり。入り口がその廃寺の建物の一部。行き当たりばったりで「ひなた」という店に入る。突き出しに山かけ、もずくなど五品が出る。ほや、蛸刺、北寄貝焼、茶碗蒸。浦霞、日高見と地元の酒を楽しむ。「ダイワロイネットホテル仙台」に投宿。近所の焼鳥屋で少々。

7日(月) ▼六時起床。風呂。日記。九時過ぎの東北本線で国府多賀城。浮島神社、多賀城碑(壺碑)、国府跡など、三時間近く散策す。奈良から平安にかけての対北方最前線の守りの国衛。仙台駅に戻り、歩いて瑞鳳殿。仙台市営バス「るーぶる仙台」にて仙台城跡。大崎八幡宮を巡る。駅ビルの飲食店街で一時間ばかり飲む。今日は二万歩ほど歩いている。蒸はや、長茄子漬。

8日(火) ▼山田真砂年氏より旅の最中に、「こもろ・日盛俳句祭」の出句がまだ届いていない！と。兼題併せて十五句。昨日、今朝と慌てて作り投函。高坂小太郎さん展覧会の記念冊子届く。夜、発行所「火の会」八人。